

國學院大學學術情報リポジトリ

『伊勢物語』における『万葉集』類歌の研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堤, 汰文, Tsutsumi, Tamon メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2516

論 文 要 旨

学籍番号	203201	氏 名	堤 汰文
論文題目： 『伊勢物語』における『万葉集』類歌の研究			
<p>『伊勢物語』は周知の通り、在原業平の和歌を中心に物語を展開させている。しかし一方で、明らかに在原業平の歌ではないものや、他の歌集に取られた和歌による物語も数多くある。なかでも『伊勢物語』よりも前時代の『万葉集』にその類歌が認められることは既に多くの先学の指摘するところである。この点について、『万葉集』を直接採り入れたとする説と、民謡的な口承歌であったとする説とがあり、従来この二つのどちらかの視点に立った上で論がなされている。しかし、享受の過程を実証するのは困難であり、双方の表現の質的差異を検討することが比較研究の第一義である。したがって、本論文では、双方の歌および歌が有する物語の表現の比較検討によって表出する、『伊勢物語』の本質を究めることを目的とする。</p> <p>第一章では、短編章段群のなかで密集する『万葉集』類歌のうち、第三十三段から第三十七段について取り上げる。これまで、『万葉集』の改作として捉えられてきた『伊勢物語』の歌を、双方の歌とその物語の表現に拘って比較検討することによって、『伊勢物語』の表現の特殊性を顕在化させ、章段とその章段群が志向する表現内容を明瞭化した。また、従来『万葉集』類歌の密集と説明されてきたこれらの章段群について、『伊勢物語』内部の論理によってもその構造が形成されていることも論じた。</p> <p>第二章では、長編章段のなかで孤立する『万葉集』類歌のうち、第八十七段について取り上げる。この章段の冒頭に掲げられる「蘆の屋の…」の歌は、『万葉集』の伝承や改変として論じられてきた。しかし、これもどのような享受の段階を経て物語に類歌が見えるのかは証明することができない。ここでは、『万葉集』の歌であるという理解からではなく、『伊勢物語』内部の論理の中で歌を理解することによって現れる、冒頭の歌およびそれが章段全体に与える意味を明らかにした。</p> <p>『伊勢物語』における『万葉集』類歌は、伝承とも改作とも捉えることのできる歌が多い。もちろん、歌の伝承の視点や、『万葉集』から直接採用しそれを改変したという視点からは多くの興味深い論が提出されている。しかし、前後の関係で考えるのではなく、比較研究の第一義である、質的差異の比較検討だけでも『伊勢物語』の本質の一端を究めることができた。『伊勢物語』における『万葉集』類歌の研究の方法として改めて立ち返るべき研究方法である。(993字)</p>			
キーワード (5語) 『伊勢物語』、『万葉集』類歌、比較研究、相対化、短編章段			